

男性用 妊娠補助薬 の副作用

山牧田 湧進



【まえがき】

※【ご注意ください】

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

G博士が新規に開発した『男性用妊娠補助薬』には金山を掘り当てたレベルのとてつもない副作用があった。

人々はその副作用だけを求めて金を積む。

そんな状況をG博士はあまり芳しく思っていなかったのだが、G博士の側近の助手である群星と蔵木までもがその薬の副作用には異常なまでの関心を示した。

G博士は生殖能力が著しく高い二人には全く不要と言い切ったのだが、普段はどちらかというと嫌がることの多い人体実験を二人の方から率先して行うように画策し、あの手この手でG博士を説得して即時の実験開始にまで漕ぎ着けてしまった。

更に二人はG博士の側近の助手であるという立場と知識を活かしてG博士が開

発した既存の薬との組み合わせまでも提案する。

果たして、その結果がどのようになったのか。

激しい性体験の数々を経てきた二人を、未体験ゾーンの射精感覚が襲う。

【主な登場人物】

・蔵木 宏彰（くらき ひろあき）

物語上の一人称「私」。保護兼世話役として群星に付いて以降、個人的好意もあって献身的な日々を重ねるうちに二人三脚的な息の合うコンビへと変化してきている。元より群星に勝るとも劣らない筋力と体力を持つ巨漢であったが、いつの間にか俊敏性も大幅向上して群星との差を詰めていたことが判明。しかし、それには納得できるような理由が存在せず、群星のDNAを取り込んで進化した説をG博士が唱えたことで事態が急展開する。後に、世界一の実績も持つ力自慢のDNAをも取り込んで、世界でも類を見ない程の身体能力を持つDNA強化改変型後天性リアルスーパーマンの第一号となる。大人のゆとりと色気と良い意味での隙きも持ち合わせていて、G博士の最もお気に入り。意外に欲深い。

・群星 光矢（むるぶし こうし）

物語上の一人称「僕」。人類に理解のできない記録の出し方をして生命を狙われる嵌めになった元超トップアスリート。蔵木に対比して先天性リアルスーパーマンの第一号とも言われる。高バランスの身体能力を持ち、特に強靱な筋力を持ち合わせつつの俊敏性の絶対的高さが蔵木に対するアドバンテージになる。精巣ドーピングの後遺症でまだ肥大化したままの睾丸が方で衝撃を生み、それが事態好転のきっかけにもなったりするラッキーボーイ。本来はゲイではなかったが、今では蔵木にべったり。馴れるに連れて末っ子的なキャラが目立つようにもなったが、そのお気楽さが達観から来ていることも。

・G博士（Dr. G）

男性、および、男性の性機能に強い関心を持ち、極秘の研究を続ける科学技術者。その分野では先端のさらに先を行っており、しかし、その研究成果

はそのままでは公開されず、時間を置いてから公開できる部分だけを厳選して抜粋もしくは未公開のまま製品開発に移行されるため、G博士本人が発表のための論文を書くことは無い。学者界でも名を知られない人物だが、蔵木とは以前から縁があった。G博士本人はそれに全く気付いていない素振りを長年してきたが、本心か演技かは不明。

これまでのG博士の研究結果は『合法的に人格を破壊する方法』『精液分泌過剰促進剤』『超人幽閉！』『精巣ドーピング』『DNA Hacker』『地下精液闘技場』『アングラザーメンコロッセオ』『射精妨害拷問』に記載されている。

【目次】

表紙	1
まえがき	2
あらすじ	3
主な登場人物	5
第1章 目的外で濫用される薬	9
第2章 人体実験しましょう	15
第3章 二人が思い付いた薬の組み合わせ	17
第4章 ダブル×インパクト	19
第5章 同時発生複合絶頂とは	21
奥付	23

第1章

目的外で濫用される薬

西暦202X年。

極々一部の富裕層の男性だけに密かに流行っている薬があった。

「先生、薬を……、あの薬を……」

「あの薬は高いんですよ。保険も効かないですし……」

怪しい薬かと思われるかもしれないが、いわゆる中毒にさせたり薬物依存にさせるような怪しい薬では全くなく、薬そのものは至って真面目な目的で開発された健全なものだと開発者は断言する。

「お金なんてどうでも良いんです。幾らでも払いますからお願いします！」

担当医師は、もうこの手のやり取りには心底うんざりしていた。
というのも、

「だいたい、貴方、妊娠目的じゃないですよね？」

ここは妊活を男性サイドから支援し補助する専門のクリニック。

なのに、ここ最近はほとんどの患者（客？）が快楽を目的として、この薬を求めてやってくる。

最初はまともに妊娠を望んでいた患者も、妊娠の成否とは別にこの薬だけを求めてリピートするようになってしまったのだ。

そう、この薬は不妊治療の一種、いや、厳密には心身の改善をするわけではないので治療ではないのだが、男性側が原因となっている不妊の改善を行い妊娠の確率を高める薬、正確には『男性用妊娠補助薬』なのだ。

「そ・こ・を・何・とか！」

だが、その本来の目的に対する効果はともかくとして、薬剤投与による副作用の方が大多数の男性を虜にしてしまい、今や快楽を目的として治療、いや、治療でもなんでもないから処置としておこうか、処置を求めてくるセレブが後を絶たない。

高額処置でかつ宣伝もしないためその絶対的人数は決して多くはないのだが、何しろリピート率が高いのだ。

そんなこんなで上記のようなやり取りが散々行われ続けた挙げ句、この独特な不妊治療を行うセレブ男性専門のクリニックはそのほとんどが快楽のために利用されるようになってしまったのだった。

なにせ、患者の要望があまりにも強すぎて、レンタルルームの併設までするはめになってしまったほどののだ。

ぶっちゃけてしまうと、精力増強サービス付きのラブホテルと何が違う？ と
思わずにはいられない状況だ。

「薬……、クスリ……」

だが、この薬は精力増強剤でも興奮剤でも無い。もちろん、媚薬でも無いし、性感を高めるような成分は一切入っていないのだ。

確かに男性が元気になることは大事なことではあるが、男性本体が多少元気になったところで妊娠に至らせることのできない弱った精子が急に強くなってくれたり数が増えてくれたりすることはまず無い。

もちろん、生活改善をして常に健康に気を使うようになれば、多少は精子も元気を取り戻せるかもしれないし、それこそがまずやるべき不妊治療なのかもしれないが、そのうえでなお足りない部分を補助してあげようとするのがこの薬の役割だ。

だから、この薬は精子や精液の方に作用するものであって、男性本体に作用させる目的で作られたものではない。

「あの薬を知ってしまったから、どうしてもあの薬が無いと物足りないんです」

ただ、体外受精や人工授精に頼らずに、なるべく本来の生殖行為で妊娠できるようにするために、この薬は性行為の直前に男性本体に対して投与を行う。

それがこんな、想定外に強い『快感』という名の副作用を生んでしまい、数々の男たちを虜にしてしまったのだ。

「先生！ お願いですから、あの薬を打ってください！」

第2章

人体実験しましょう



(こちらは体験版です)



第3章

二人が思い付いた薬の組み合わせ

(こちらは体験版です)

第4章

ダブル×インパクト



(こちらは体験版です)



第5章

同時発生複合絶頂とは



(こちらは体験版です)





男性用妊娠補助薬の副作用

OpusNo.	Novel-065
ReleaseDate	2020-03-20
CopyRight ©	山牧田 湧進
& Author	(Yamakida Yuushin)
Circle	Gradual Improvement
URL	gi.dodoit.info

個人で楽しんでいただく作品です。

個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、共有、アップロード等はしないでください。

(こちらは体験版です)